

令和7年第1回 区づくり推進横浜市議員会議（青葉区） 議事録	
開催日時	令和7年2月3日（月） 午後4時10分～午後5時27分
場 所	青葉市役所4階会議室及びWeb会議
出席者	<p>【座 長】 行田朝仁議員</p> <p>【議員：6名】 田中ゆき議員、山下正人議員、伊藤くみこ議員、横山正人議員、藤崎浩太郎議員、おさかべさやか議員</p> <p>【説明局員：22名】（青葉区：22名）</p> <p>中島区長、真船副区長、青木福祉保健センター長、壺井福祉保健センター担当部長、綱河土木事務所長、宇多消防署長、ほか関係職員</p>
次 第	<p>議事</p> <p>令和7年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算（案）」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度 青葉区編成予算（自主企画事業） 事業概要（資料1） ・令和7年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算（案）（資料2） ・令和7年度予算編成に向けた「区提案反映制度」項目・対応状況一覧（参考資料）
発言の要旨	<p>資料1を中島区長が説明。資料2及び参考資料を真船副区長が説明。</p> <p>行田座長 それでは意見交換に入りたいと思います。おさかべ議員。</p> <p>おさかべ議員 まず、5ページの出張子育てひろばについて幾つか教えてください。既に話し合われて地域の課題が出て、それを踏まえてということだったのですが、どの地域でどんな課題が出たのか教えていただきたいのと、これは先ほどのログハウスと同じように乳幼児が対象なのですか。そのあたりを教えてください。</p> <p>藤本こども家庭支援課長 各地区の課題ということですが、ケアプラザを中心とした11地区に分かれ、それぞれの地域で子育てネットワークの課題を話し合っております。11地区それぞれの課題で似たようなところと違うところがありますが、青葉区のお母さんたちは、何か集まりがあったとしてもつながりを持つということを積極的にしないということと、別に友達はいなくてもいいというような発言があったり、集まってもばらばらに帰ってしまって、友達づくり、仲間づくりというところは、介入者がいないとなかなか成り立っていかないということがあります。それから、イベントの周知方法が課題になっています。例えば美しが丘につきましては、先ほどの仲間づくりがやはり苦手であるというのが出ているところです。そういった中で、出張子育て相談ひろばというものを区づくりで、子育て支援拠点ラフルに一部委託しまして必要な場所を検討し、14会場、地域の町内会館や公園等を活用してやっていきたいと思っております。対象は乳幼児でどこにも所属していない方を対象に考えておりま</p>

	<p>す。</p> <p>おさかべ議員 保育園に入る前はなかなかママ友がまだできない時期なので、まずは乳幼児期からやられるというのはいいかなと思います。それから、今お話しいただいたように既に課題をいろいろ把握されているようなので、ぜひそのニーズに応えていってもらえたらと思います。今、イベント集客があまりできないのが青葉区のお母さんの特徴であると。これはどうやって周知されていくのでしょうか。</p> <p>藤本こども家庭支援課長 集客できないという話が出たのはネットワークの中でした。まずはその地域の方たちが横のつながりをつくっていきこうということで、例えば保育園の事業を子育て支援者がお知らせするとか、保育園のホームページに子育て支援の会場はここがあると、それぞれの場を使ってほかの支援者の場を紹介していこう、まずはそこをやっていきこうというような動きが出ております。</p> <p>おさかべ議員 そうすると、保育園に通っているママさんたちになってしまうのでしょうか。</p> <p>藤本こども家庭支援課長 保育園に通っていらっしゃる方ももちろんそうなのですが、掲示板が外にあったりします。だから、そこを通りかかった方や、保育園が園庭開放してくださっていたり、子育て相談をしてくださったりしているので、そういう機会を捉えて地域の方に紹介していただくというような、保育園の先生方のご協力も得ております。</p> <p>おさかべ議員 やはり集客のところが一番大事で、私は横浜市立の保育園に入園前から連れていったりもしたのですが、なかなか今、掲示板を見るのは難しいと思うのです。母子手帳をあげるときにこれを伝えるのは早過ぎるということで、なかなかポイントがないのかもしれませんが、ぜひ健診のときとかにも伝えていって、直接広めることを大切にしてもらえたらと思います。</p> <p>もう一点、25ページの区民意識調査は3年ごとにされるということなのですが、実施の前に調査を見せていただいて、こういったことも聞いてもらいたいとか意見することはできるのでしょうか。</p> <p>高向区政推進課長 実施内容につきましては、基本事項として、前回との経年を比較するような項目がメインとなっているのですが、それ以外にもトピックス的な、特に今回聞きたいというものを載せて質問票を制作しているところです。3月頃には内容を固めたいと思っているのですが、あまり個別にこういう質問をとという反映はなかなか難しいところがあるかと思いますが、もし課題意識とかそういったことがありましたら教えていただけると検討はできるかと思っています。</p> <p>おさかべ議員 ずっと水遊び場を言っているので、ぜひ調査してもらえたらなと思ってしまいました。3月に内容を固められるということで、できたら一度</p>
--	---

	<p>見せていただけると助かります。</p> <p>最後に、来年9月から屈折検査機を用いた視力検査が行われます。6か所から先行実施するというので、これは私もほかの議員さんと一緒に進めてきていて思いがあるのですが、青葉区はそのあたり、積極的に手を挙げてやっていこうとされているのか、教えてください。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>一旦、局のほうからの指名になりますので私のほうからということではないのですが、お声がかかったらもちろん受けていこうと思っております。</p>
おさかべ議員	<p>川崎でも施策化してもらって、区内ケアを用意しなければいけないというのが一つ課題としてはあるのですが、あと、その検査機器の使用の仕方ですね。ただ、それさえマスターできれば、検査時間はすごく短いですし、子供が小さいうちに発見できることがその後のことにつながっていくので、ぜひ積極的に受け入れていただけたらうれしいです。よろしくお願いします。</p>
行田座長	<p>山下議員。</p>
山下議員	<p>事業費が全体的に増えているようなのですが、個別に見ると自主企画事業費が減っていますよね。それで施設費ばかりが増えているようなのですが、自主企画事業は青葉区としての課題が少ないような感じなのでしょう。そもそも自主企画事業には「10年から30年後の青葉区を見据え」ということが書いてある中で、福祉施策というのは横浜市として均一でなければ駄目だと思っているのですが、そちらの予算よりも、魅力的で選ばれるまちの3番目の項目のほうに本来は予算をつけるべきだと思うのですが、その辺の全体的な考え方について区長にお伺いします。</p>
中島区長	<p>一番は、区制30周年事業が終わりまして、その分が大きく減ったことによって、ほかの新たな取組にもつけているのですが、自主企画が前年度より減っているという状況でございます。</p> <p>それから、おっしゃるとおり福祉施策というのは、全市である程度均一に行うのが基本だというのはそのとおりだと思います。その上で、青葉区独自の状況のものについて主にやっているのですが、おっしゃるように、便利で選ばれるまちですとか、愛着を持って暮らせるまち、こういったものについてもしっかりとやっていかなければいけないと思っております。この、いつまでも愛着を持って暮らせるまちのところで大きいのは、まさに30周年事業の分が一番大きく減っております。あとはその後の展開など、6年度にある程度のところまで達したもののについて見直したことで、今回はそこが減っているということでございます。今後はまたここにしっかりと力を入れていきたいと思っております。</p>
山下議員	<p>分かりました。その話の流れで、福祉施策の16ページ、障害児の支援</p>

	<p>事業の動画をつくるということなのですが、これこそ動画は18区全部同じでいいのではないかなと思うのですが、なぜ青葉区だけ動画をつくるのでしょうか。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>実はこの動画に関しては、つくりたいということで、係長レベルではほかの区に呼びかけをしてもらったのですが、ほかの区の動きがなかなか取れないという中で、先にこちらのほうで実施して、もしよければ全市的に展開できればというような取組でございます。</p>
山下議員	<p>モデル事業として青葉区からスタートするという話であれば、健福から半分ぐらいお金を取ってきてくださいよ。せこい話で大した金額ではないかもしれませんが、それは佐藤局長に言っておいてください。いずれ、よければ全市展開するし、課題があればやらない。その目的では区づくりを使う意義があると思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>それと、先ほどの便利で選ばれるまちに継続している話なのですが、いよいよマスタープランの改定がありまして、今回、先ほどおさかべ議員から区民意識調査の話が出ましたが、その上にマスタープランの話が入っています。これこそ区民意識調査をして、マスタープランにどう反映していくかというところが肝だと思うのです。だから、ここのところが一番大事だと思っているのです。10年後にどんな街をつくっていくか。20年後に青葉区はどういう街になるか。非常に将来に対して今、危機感を持っていますので、ここのところの反映というのがすごく大事だと思っているのですが、いかがでしょうか。これは区長に聞きたいのですが。</p>
中島区長	<p>おっしゃるように私も、今のままでいくと、2070年には3分の2に人口が減るのではないかと、こちらについては危機感を持っております。そういう中で、マスタープランもどういうものを目指すかということを示すのは大事なことだと思っております。その上で、私としてはやはり、今、特に令和6年の青葉区は、総体では人口減になっている。これは、一番多いのは、自然減と自然増の差が非常に大きくて、自然減、要は高齢者のお亡くなりになる方がすごく多く、今どんどん増えているので、出生が追いつかないという状況があります。まずはそういったような状況がこれからずっと続くと思いますので、そこを解決していくには、自然減はもうやむを得ない。そうしながら、自然増もしくは社会増をどれだけ増やしていけるかということが一番大事かなと思っております。特に稼働年齢層の子育て世代層がいかに青葉区に住みやすくなるかということが大事だと思っておりまして、今回、今年度の調査でも、周りの川崎市ですとか町田市ですとか、そういったところとの比較みたいなものも今調査しているところなのですが、そういった中で私は、これは一種の都市間競争だと思っているのですが、その都市間競争に勝つため</p>

	<p>に、そうした社会増、自然増を増やすための取組をこの中で打ち出して いきたいと思っております。</p> <p>山下議員 これは区長のおっしゃるとおりで、社会増を増やしていくためにイン フラの整備が必要になってくるのです。そうすると、これは井波さんの 仕事なのですが、社会増を増やすために駅前を何もやらなかったら話に ならないわけです。駅前がさびれていたら話にならないのです。何度も 言いますけれども、たまプラーザの駅前に10時を過ぎたら人が歩いてい ないという話では駄目ですよ。だから、そういう街をつくっていくため にも、インフラの整備をするために、やはりマスタープランに書き込ま なければいけないのです。そういう意味では非常に大事だと思いますの で、ぜひこのところは打ち出してやっていただきたいと思います。</p> <p>佐藤生活衛生 最後に1点だけ、ペット。40ページですが、来年度予算で今検討され 課長 ていますが、ペットも、TKB48といわれる48時間以内にトイレ・キッ チン・ベッドを用意するという、モデル的に予算を来年度入れる予定です。 それにペットも入っていますので、一番ペットの多い青葉区、こういっ たユニットを使いながら、いかにペットと同行避難していくかというこ ころも、区民の意識の中で非常に高いと私は思っているのですが、そこ のところを反映するような計画はあるのでしょうか。</p> <p>山下議員 人とペットが同室で避難するということについては、新たな防災戦略 行田座長 の中に掲載されまして、動物愛護センターへ同室避難場所の設置を検討 藤崎議員 する他、モデル的に進めていくと聞いております。そのモデルについて は、現在ございます地域防災拠点の中から選ぶモデルと、総務局と動物 愛護センターで連携して民間の利用施設についても検討を進めていく と聞いておりますので、そのモデルの対象を青葉区からということであ れば、連携しながら進めていくという形になっていくと考えておりま す。</p> <p> ぜひ手を挙げてください。以上です。</p> <p> では、リモートから藤崎議員。</p> <p> まず5ページ、出張子育てひろば。今回、新規になっているのですが、 これまでラフルそのものが出張ラフルをやっていたと思います。今 回、委託先がラフルとなっているのですが、これまでの出張ラフル とどう違うのか。この新規として計上されているものとの違いを教え てほしいというのが1点目です。</p> <p> 次に、これはちょっと細かい話で申し訳ないですが、6ページ目の (9)。さっき何か言っていたような気もするのですが、よく聞き取れ なかったのが念のため、情報発信媒体がどのように変更されたのかが6 ページ目の聞きたいところです。</p> <p> 次が12ページ目右上の、在庫活用等による消耗品の減。とてもいいこ</p>
--	--

<p>藤本こども家庭支援課長</p>	<p>とだと思うのですが、どんな感じで消耗品の減につなげられたのか、スキームというかその辺を伺いたいです。</p> <p>次に14ページ、映画の上映会とあるのですが、認知症に関する映画の上映会。今年度も各地域ケアプラザで独自に取組が行われていたと把握しているのですが、同等の映画の上映会を区が主催してやるということなのか、それとも、新たにということなので、ちょっと趣旨が違うのかなというところを教えていただきたいというのが一つ。</p> <p>あと、17ページの説明動画の作成。これは、視覚障害者の当事者の方はなかなか見られないと思うのですが、そういう人たちに対するケアが何か用意されるのかというのが一つ。</p> <p>20ページの地域課題解決応援事業。これは3回程度で、区内で地域活動を行っている人・団体とあるのですが、区役所1階の区民活動支援センターでも似たような事業が行われてきたと思うのですが、その辺の違いがどうなのかというのと、あおばスタート補助金。結構、使いたくても使えないという。スタートで限定的だった分、お金は欲しいけどこの補助金に合わないという方が多分、たくさんあったのではないかと思います。実績がどうだったのかというところを伺いたいです。</p> <p>あと次、23ページ。これも単純に、AOBAデジタル・アートミュージアムが今どの程度利用されているのか知りたいです。</p> <p>最後に、29ページですね。事業精査による減というのは、区庁舎132万6000円と出ているのですが、どういう事業精査をしたらこれだけ出てきたのか、その辺を教えていただきたいということです。以上です。お願いします。</p> <p>5ページ目の出張子育て相談ひろばにつきまして、新規と書かせていただいております。先生のおっしゃるとおり、昨年度も出張ラフルールを行ってはいたのですが、来年度に関しましてはしっかり予算化することと、地区別ネットワーク連絡会で話し合われた課題を踏まえて、必要性に応じて行っていくということを大きく打ち出しております。</p> <p>続きまして、6ページの9番目、子育て情報発信事業につきまして、こちらはパマトコが稼働し始めまして、今までAonicoという青葉区独自の媒体を使って情報発信しておりましたが、おおむねそちらのパマトコのほうで地域の情報を発信できるようになりました。しかし、こちらで調査した結果、6%ほど、サロンとか地域の民生委員さんたちがやっております、広く誰かに周知するというものではない活動がございます。そういうものについては、パマトコでの掲載がなかなか難しいということがありましたので、地域情報が集約されるという役割をラフルールが持っておりますので、そちらのホームページで掲載し、開催があるなしも含めて地域に密着した情報を発信していくということに変えていく予</p>
--------------------	--

	<p>定です。</p> <p>大崎福祉保健課長 12ページ（3）福祉保健活動事例発表会の在庫活用等による消耗品の減ですが、昨年度までは複写機のトナーやカラー模造紙等を買っていたのですが、そこを今までのものを活用します。また、ペーパーレスということもありますので、消耗品を削っております。</p> <p>岸田高齢・障害支援課長 14ページ、認知症の映画イベントでございますが、こちらはケアプラなどでも映画上映会をやっているのは存じておりますが、ふだん認知症に関心のない人もターゲットに区から発信ということで、新しい知識の普及啓発などを進めますとともに、認知症キャラバンメイトさんの活動についても広報しながら、参加された方に、単に面白かった、そうでなかったというアンケートではなく、意識調査という形でアンケート調査をして、現状と課題を今後の認知症施策に生かせるようなイベントとして考えております。</p> <p>また、障害者用の動画でございますが、視覚障害者の方でも分かりやすい言葉でご説明しますとともに、場合によってはテキストで読み上げができるような形で、障害の資料といいますか案内の作成ということも考えてまいりたいと思っております。</p> <p>松本地域振興課長 まず、20ページの地域サポート事業の中で、地域課題解決応援事業と区活センターでやっているものとどう違うのかというご質問ですが、24ページの区民活動支援センター事業の中に地域デビュー応援講座というものがあるのですが、こちらは、これから地域活動を始めたいと考えている方に受講していただきたいと考えております。主にこちらの講座は、これから地域のために活動したいという個人の方を対象に、講座の企画運営を通じ、地域活動のノウハウを学んでいただくものです。一方、地域サポート事業にあります地域課題解決応援事業では、既に地域で団体に所属して活動している方やグループを対象に、団体応援の負担軽減、活動の広がりにつながる情報提供や交換の場を創出することを目的としているものです。</p> <p>次に、スタート補助金の実績につきましてです。スタート補助金につきましては、令和6年度は4件の事業について補助を実施しました。先ほどスタートということで使いづらいのではないかなというようにお話がございましたが、こちらは令和5年度から対象となる事業について、これから始める事業に加えて既存の事業の改善や見直しをする事業ということで、範囲をちょっと大きくしております。令和6年度4件の事業の補助なのですが、実は16件ご相談いただいております。申請に至ったのが4件ということでございました。残りのものについてはどうだったのかということですが、ご自身たちのほうで計画ができなくなったり取り下げられたところですか、内容を精査したときにあまりにも補</p>
--	--

	<p>助金の趣旨に合わないということで断念された方もいらっしゃるというふうに聞いております。</p> <p>次に、23ページのデジタル・アートミュージアムに関して実績ということで頂いたのですが、令和5年4月から6年度末まで、昨年度になりますが、トップページのアクセス数が年間で1376、アクセスページ件数は年間で1万2748と、前年度に比べて大分減っているような状況です。原因としましては、こちらの紹介サイトを立ち上げた際に作家の作品を限定したため、なかなか新規の情報が紹介できないということもありまして、大幅に閲覧数の増を見込めていないというところなんです。そのため、今回、外部のサイトに出していたものを見直して、まず内部サーバーに移した上で内容を精査し、より皆さんに見ていただくサイトにするということで見直しを行ったものです。</p>
富澤総務課長	<p>区庁舎の環境整備の事業精査による減についてご質問いただきました。区庁舎も築30年となりますので、やはりそれなりに修繕しなくてはいけない部分があるのですが、優先順位をつけて対応していきたいというところでございます。</p>
藤崎議員	<p>在庫の再利用で支出減みたいな話とか、ほかの区の事業で適用できるのかどうか全然分からないのですが、先ほど、区の予算の限界の中でいかに支出を減らすか、支出をまず減らした上で新しい事業に転じられるといいだろうなと思いますので、そういったノウハウが区で許されるというかなと思って聞きましたというのが一つです。</p> <p>あと、認知症の映画に関しては、各ケアプラザでの定員が数十名と結構小さかったりしている中で、区が主催で大きくできたりすると、より視聴機会につながるだろうなという一方で、各地域ケアプラザの日程等とうまく連携させながら上映機会が得られる。例えば、区主催で見られなかったとしてもどこかのケアプラザで見られるとか、ケアプラザで見られなかったけど区で見られるとか、ちゃんと連携されてくるといいだろうなと思います。今、認知症のほうも様々な連携を区で進めていただいていますので、うまくその枠組みを使ってやっていただけるといいなと思いました。</p>
行田座長	<p>では、伊藤議員。</p>
伊藤議員	<p>最初にお聞きしたいのは、6ページの新規事業ということで「産前産後のからだケア」をやるということですが、こういう新しい事業をやるに至った背景というか、どのような理由からかということをお教えください。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>こちらは、青葉区は高齢出産が第1位ということと、4か月健診等でお母様方からよく聞くコメントを保健師や助産師が聞き取っておりまして、手首が痛いとか、腰が痛いとか、身体的な悩みが多く聞かれてい</p>

	<p>ます。出産後のケアや体の使い方について、まずPT（理学療法士）の方をお呼びして、しっかり産後の体について学ぶ機会をつくっていくことを考えました。</p>
伊藤議員	<p>そうしますと、ここに書いてあります、うつ予防ということもございますが、精神的な部分での不安定さというのも多いのでしょうか。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>青葉区の産後うつの総数がどれぐらいかという数は取っておりませんが、研究によりますと、産後うつは全体の10%ほどいるということと、うつ傾向というのも入れますと、約4人に1人というような報告があります。実数は取っておりませんが、100%の母子健康手帳面談の中でもうつの既往があるとか、今まだ薬を飲んでいますという方も多数見られるという状況もありますので、まず心身の健康をつくるのがうつ予防になるということと、実際に出てきていただくことで、人との関係をつくるのがうつの予防になると考え、外出の機会の一つとして活用していきたいと考えております。</p>
伊藤議員	<p>非常に大切なことだと思います。様々な意味でやはり人とつながることが言われている中で、こういう機会を利用しながらしっかりとケアしていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>次に、先ほど藤崎議員からもお話がございましたが、映画の関係です。こちらは認知症の映画の関係ですね。14ページ。ある程度具体的な内容というのはもう決まっているのでしょうか。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>ある程度候補は幾つか絞っておりますので、その中から決めていきたいと考えております。</p>
伊藤議員	<p>やはり認知症を知っていただくということは非常に大切なことなので、こういう取組は重要だと考えております。あわせて、やはり認知症だけでなく、発達障害の方とか、内部障害のある方とか、外見からはちょっと分かりにくい、それによって理解されないで傷ついてしまう、そういうことがある方たちへの取組というのをもう少し様々な分野に広げていっていただきたいと思います。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>私ども、高齢者支援及び障害者支援を行っておりますので、なかなか外見からは見られない障害をお持ちの方等々も併せて普及啓発に努めてまいりたいと思います。</p>
伊藤議員	<p>様々な条件のある方へのしっかりとした取組をお願いしたいと思います。</p> <p>それと併せて発達障害の関係で、私は県議の頃から子育て健診を実施すべきということとずっと取り組んできたのですが、今回初めて予算がつきまして、今後その方向で動くということになっておりますが、青葉区では具体的にどのような形で取り組んでいかれるのでしょうか。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>こちらの子育て健診につきましては、まだ局のほうでも検討中という</p>

庭支援課長	<p>ことになっておりますので、局の動向を見ていきたいと考えております。</p>
伊藤議員	<p>恐らく局のほうでも、これから具体的にどのような個別観察をするのか、集団で行うのか決めていくと思いますが、医師会との連携等、様々なことが必要だと思いますので、その辺の取組などもしっかりお願いいたします。</p>
行田座長	<p>では、リモートから横山議員。</p>
横山議員	<p>まず、予算編成の考え方のところですが、区長からの挨拶にもありましたとおり、人口減少社会への突入ということの課題認識というご発言がありました。これは青葉区だけでなく横浜市全体で少子高齢化、人口減少、それに伴う税収不足という、これから大変な時代に入ってくるわけですが、ただ、僕は、そういう時代認識を持っているのであるならば、制度もやはりそれに追いついていかなければならないと思っているのです。何が言いたいかというと、人口急増期の人口抑制政策がいまだに横浜市はまかり通ってしまっていて、こういう中で人口減少社会の対策といっても、私はぴんとこないのです。例えば、これから青葉台のURや食品センターの建て替え・再開発が入ります。こういったところも大胆な規制緩和がないと、なかなかいいものができてこないし、これからマンションだとか住宅、特に大規模な集合住宅の建て替えというのが喫緊の課題になってきますから、こういったところにも対応しなければならない。あと、例えば東名の青葉インター周辺の農地の問題をどうするかとか、これはもう、国の大動脈の東名高速と我が国最大の港湾が直結する結節点なわけですから、あのままでいいわけなんかないわけですよ。こういったことも積極的に区から提案していくべきだと私は思います。これは、青葉区が独立した一つの自治体だったら間違いなくやっている話ですよ。横浜全体で見ているから緩やかになっているわけで、予算編成の考え方でこういう認識をお持ちであるならば、市に対して積極的に地元の青葉区が発言していくべきだと思いますので、ご見解を伺いたいと思います。</p> <p>次に、施設の管理費なのですが、土木事務所が減額になっていて、スポーツセンター、区庁舎、区民利用施設が減額になっています。スポーツセンターは再整備が終わったからなのかなと思うのですが、土木事務所のマイナスの理由を伺いたいのと、区民利用施設の修繕が減額になっている理由も伺いたいと思います。</p> <p>それと、区づくりに直接関係ないとは思いますが、先日、私は久しぶりに市が尾から羽田空港行きのバスに乗りまして、改めて市が尾発着が早くて便利だなと思ってSNSでつぶやいたのですが、意外なほど反響があって、空港線については早くて便利だというのがありますが、ほ</p>

かの路線についても市が尾発着を増やしてもらいたいと。特に、ディズニーランドに行く便がたまプラ発着になっているのですが、青葉インターで降りて延々とたまプラまで行くのは無駄だと。私もそう思います。市が尾で降ろしてくれればすぐ田園都市線に乗って移動ができるのにと。こういうご意見でありました。私からも東急には言いますけれども、市が尾発着、特に高速に乗るバスについては、今後やはり拡大していく必要があるし、それが街の便利に私はつながっていくと思いますので、これもぜひ区からの発信をお願いしたいと思います。

それと、青葉スポーツセンターなのですが、空調設備を第1体育室に入れていただいて空調化を図れたのですが、ここのところ私が聞くのは、なかなか効きがよくないと。大きな空間なので、それを暖めたり冷やしたりというのは大変な作業だと思うのですが、なかなか効きがよくないということを聞きます。他方で、第2体育室はもともと空調設備が入っているので効きがいいのですが、初めからつくっていたものは効きがよくて、新たにつけたものは効きが悪いということを聞きますので、ぜひ区役所で効果測定をしていただきたいと思うのです。整備効果がどの程度あったのかとか、利用団体にヒアリングしてもらおうとか、ぜひそういうことをお願いしたいと思います。

それと、この間、スポーツ人の集いがあったて私はちょっと耳を疑ったのですが、指定管理者から土足で入るのはやめてもらいたいという申し入れがあったらしいのです。なぜかという、靴の裏に小石とか入っているとカーペットが傷むと。こういう理由だそうです。私の理解では、例えば区の賀詞交換会や区民まつりなどについては、多くの方が土足のまま上がってこられるように養生してやっているのを指定管理者も理解した上でやっていると思っていたのですが、どうもこのスポーツ人の集いについては、幾ら養生していたとしても小石とか入ってくるしカーペットが傷むからやめてくれという申し入れがあったらしいのです。実はついこの間、この問題についてはさんざん大きな問題になって、指定管理者も私は理解していると思っていたのですが、どうもまだ理解の度合いが少ないのか、あるいは次の更新に参加する意欲が全くないのか分かりませんが、自分のところの都合で一体誰の施設なのかと思うようなことをスポーツ協会の方々におっしゃっていたようですので、この実態も明らかにしていただきたいと思います。

最後に谷本公園なのですが、これは区提案の反映制度の中にも今回入れていただいております、局と一体となって事業の進捗を進めていただきたいと思いますので、最後に谷本公園の状況を聞いて終わりにしたいと思います。

中島区長

それでは、1つ目の市街地の規制の問題、3つ目のディズニーランド

	<p>のバス便の話、この2つを私からお答えいたします。</p> <p>横山先生おっしゃるように、やはりこれからこの青葉区内の様々な施設が50年から60年というような経過をしております、少しずつ建て替え・再整備というものが入ってくる時期に今なっております。また一方で、人口増から人口減へと大きくトレンドも変わってきている中で、この青葉区が住み続けたい街になるように、そうした様々な今の規制ですとか、まちづくりそのものについても、区として議員の先生の皆さん、そして区民の皆様からのご意見を踏まえながら、市当局にもしっかりと意見を言ってまいりたいと思います。</p> <p>また、例えばディズニーランドへのバス便の話がありましたけれども、東急バスさんが主に運行されていると思いますが、そちらのほうにも実態などを確認しながら、どうすれば区民の皆さんが使いやすい高速バスになるのか、ほかの鉄道も含めた公共交通が使いやすくして利便性が上がるのかということについても話し合ってまいりたいと思います。</p> <p>では、2つ目の施設管理については総務課長から説明いたします。</p>
富澤総務課長	<p>施設管理費の土木事務所部分の予算減についてご質問いただきました。こちらにつきましては、ESCO事業の導入に伴います電気料金の減ということで、その部分がマイナスとなっているものです。また、区庁舎・区民利用施設の修繕費の減については、内訳を申し上げますと、区庁舎の修繕費部分における減です。優先順位をつけて実施することで減額対応としております。</p>
松本地域振興課長	<p>スポーツセンターにつきまして、いろいろとご意見頂きました。</p> <p>まず、第1体育室の空調の効きがよくないということで、こちらにつきましてはしっかりと先生のおっしゃるとおり利用者の方のご意見を伺った上で、効きの状況などを確認してまいりたいと思っております。また、第2体育室のほうはかなり効いているということですので、そういった状況もしっかりと把握していきたいと思います。</p> <p>また、先日行われたスポーツ人の集いのお話は、申し訳ございません。私もそのようなことがあったということを今初めてお伺いしましたので、区民まつり等もしっかりと養生してやっているのですが、そういったことをスポーツ協会さんに言っていたという事実を確認させていただいて、指定管理者のほうにはどういった意図で言ったのかというのをきちんと確認させていただきたいと思います。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>谷本公園の用地買収状況ですが、昨年3月に買えた以降、新たに追加の購入はまだできておりません。現在の交渉の状況ですけれども、残った土地1筆を除いて全て仮登記がついた土地でございます。今、交渉に当たっているほうと意見交換しますと、やはり仮登記の方々へのアプローチを強化しながら、両者の意見をそろえることに注力しながら、今交</p>

	<p> 渉しているといった状況でございます。あと、先生から以前お話のありました用地管理の柵でございますけれども、現在、暫定の多目的広場として使っている横の、広くまとめて買収できている部分について、2月中の完成予定と聞いておりますが、金網のフェンスをくくって分かりやすく、この部分は用地として確保するというのをアピールしていきたいという報告を受けております。 </p> <p> 横山議員 ちょっと追加でお願いしたいのは、青葉台駅周辺の再開発の件なのですが、特に住宅も含めて契約を更新しない、あるいは新しい入居者を入れないということなので、どんどん退去というか、住宅から出ていっているわけですよ。なので、夜などを見ると、本当にまばらにしか明かりがついていない状況です。ショッピングセンターについても店舗が出ているところが多いので、実はあそこはシャッター街になっているのですよね。事業が始まるまで時間がまだあると思うので、あのままシャッターにしておくと、やはり街のにぎわいという点からちょっとよろしくないのではないかと私は思っていて、都市整備にも東急にもお願いしているのは、例えば単発でもいいからあそこの店舗を利用して、人通りがあるような店舗展開ができないかと。ずっといるわけではなくて、期間を決めてシャッターにならないような工夫をしてもらいたいと思っているのですが、これはぜひ区役所としても、あそこがシャッターでずっとつながっているというのは、やはり街並みとして僕はよくないと思うので、ぜひご検討いただきたいと思います。どうでしょう。 </p> <p> 井波区政推進 課担当課長 先生おっしゃるとおり、2月末を目途にお店は全部出ていくという話は聞いております。これから利用者さん、東急さん、都市整備局3者で協定を結んであの部分の今後について話し合いを始めるということですので、区としても打合せにできる限り顔を出しながら意見交換していきたいと思いますので、今のお話についても投げかけていきたいと考えております。 </p> <p> 行田座長 田中議員 では、田中議員。 私からはまず、高齢者施策について2つです。12ページの青葉ふれあい見守り事業のところで、70歳以上の一人暮らしや高齢者のみの世帯というのが増えていっていると思うのですが、これが実績減になっているところ、民生委員さんとか地域の見守りの担い手の人が減ってきているところもあると思うのですが、青葉区として独自に地域で見守りというか、高齢者の单身の方とか高齢者のみの世帯をどのように見守っていこうと考えていらっしゃるのかというのが1点です。 もう一点が、隣の13ページのシニアの社会参加推進事業のところで、前のほうのページにも掲げられているeスポーツを活用した高齢者の社会参加の促進ということに力を入れていくようなのですが、これまで </p>
--	---

	<p>も実績があると思うのですが、高齢者の方とeスポーツの親和性みたいなものとか、eスポーツに力を入れていくのはなぜなのかというところをまず教えていただきたいと思います。</p>
大崎福祉保健課長	<p>12ページの見守りについてお答えいたします。今後、見守り対象者は、高齢化に伴って増えてまいります。一方で、今、民生委員さんを中心にやっておりますが、やはり民生委員さんの負担軽減ということもありますので、今後、見守りの担い手という点で、ほかの方々、地域全体での見守りができるような観点で、民生委員さん、地域を含め、考えていきたいと思っております。民生委員が欠員されている場合は、見守りサポーターの選任ですとか、そういったところへの資金援助を行っておりますので、地域のニーズを確認しながら進めていきたいと思っております。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>まず、青葉ふれあい見守り事業の減額ですが、こちらは全体研修の回数を精査したところ、地区別研修の実績に数字を合わせたということで、何かが減ったということよりは、そういった実効ベースで修正したというものでございます。</p> <p>あと、eスポーツに関してですが、いろいろ集まりの場で今実施されているものもございます。例えばカラオケですとか、囲碁・将棋ですとか、そういったものはあるのですが、カラオケですと、興味のある方は自分が歌っていないときも楽しめるのですが、eスポーツは太鼓の達人というのを使っているのですが、そういうものと、周りの人も一緒に応援しながら、自分が参加しないときにも参加できるというのもございますし、体がなかなか動きにくい、例えばボッチャとか体を動かすようなスポーツでなくても参加できますので、どんな方でも親和が低く入れるということで、将来的には世代を超えてお子さんから老人も一緒に楽しめるツールとして親和性があると考えております。</p>
田中議員	<p>この見守り事業に関しては、予算の増減とか額よりも、やはり見守りの仕方が、今は地域のきずながきずながと言っていますが、一方で孤立している高齢者世帯も増えてくると思うので、いろいろ見守りの仕方を一緒に考えていただきたいと思います。</p> <p>eスポーツに関しては、今ご説明いただいたように、健康効果や社会参加という点ではすばらしいと思うので、もっと身近に、高齢者の方からeスポーツを楽しんでいるという声がまだあまり聞こえてきていないので、ぜひ広報と周知をお願いしたいと思います。</p> <p>あと、35ページの環境出前授業のところ、ペロブスカイト太陽電池を用いた環境出前授業ということですが、これは実施校数8校ということですが、対象の学年とか1回で受講できる人数はどのような感じになっていますでしょうか。</p>

高向区政推進 課長	出前授業につきましては、実施校数が今年度は8校を予定しております。1回当たりの参加者については、基本的には1学年全体を対象としており、それぞれ学校に合わせた会場で実施するというようになっております。例えば1クラス教室でやるところもあれば、3クラス体育館でやるところもありますので、それぞれの学校のご要望といいますか、それに応じて授業を行っているという取組でございます。
田中議員	ペロブスカイト太陽電池に関しては、区役所の皆さんのご尽力もあって結構、青葉区の皆さんの関心が高まっている中で、家庭とか社会全体の高度利用につなげていくことを目指すという中では、例えばこういった授業を動画でアーカイブみたいにして配信したりすることって、いろいろ実務的な、実験的な部分は難しいにしても、何かできないでしょうか。
高向区政推進 課長	ぜひとも小学生のお子さんが学校で学んだ内容を家庭にも持ち帰って、親御さんも含めて理解して話し合っていくような展開ができないかと考えているところです。動画とかアーカイブとかそういったところは、桐蔭学園さんが実施する事業ですので相談が必要かと思いますが、より効果的に、お子さんが受けた授業が親御さんのところにも波及していくように検討していきたいと思います。
田中議員	ぜひよろしくお願いします。あと、先ほど質問があったと思いますが、災害時のペット対策のところ、ペットを、犬とかを散歩させて電信柱に排泄したりという中で、災害時のペット対策の中に、飼い始めたとき、猫とかもそうですが、ケージに慣れることを習慣づけたり、飼い始めのときから飼い主さんに災害対策ができるようにしている仕組みとか、今の啓発というのはあるのでしょうか。
佐藤生活衛生 課長	現在、犬を飼い始めた方は必ず登録に来てくださいます。区役所の窓口と動物病院での窓口での登録になりますので、その際に災害時のペット手帳というものをお配りしておりまして、その中で必ずケージに慣れるようなしつけが災害時に役立つということをお伝えしております。
田中議員	猫に関してはどうでしょうか。
佐藤生活衛生 課長	猫に関しては正直、登録の制度がないので飼い主さんの実数なども分からない状況ですが、区内の獣医師会の先生方と協力してそのようなことができるようにしてまいりたいと思います。
田中議員	ぜひ、猫を飼っている方も多いと思うので、そのような周知をお願いしたいというのと、先ほどもありましたように同室避難という言葉が、今回、医療局の予算の中に初めて入ったと思うのですが、青葉区の予算の中に同室避難という文言はどこかに入らないのでしょうか。
佐藤生活衛生	まだ局のほうから出てきたばかりで、先ほども申し上げたとおりモデ

課長	<p>ル拠点という形で展開していくようになると思いますので、その動向を踏まえながらまた次年度以降、検討してまいりたいと思います。</p>
田中議員	<p>ぜひ、同室避難を求める声が結構ありますので、よろしくお願いします。</p> <p>あと、先ほど横山先生からもあった青葉スポーツセンターの第1体育室なのですが、昨年12月に、私もお昼過ぎぐらいに朝からやっている行事に行ったところ、結構着込んでいたのに寒かったということと、今年の賀詞交換会のときにも寒いという声が地域の方から結構あったので、ぜひ何とか改善できるようにお願いしたいと思います。</p>
行田座長	<p>最後に1点だけ私から質問します。14ページの先ほどから出ています認知症支援のところで1点だけ確認なのですが、ある意味、今回の予算というのは、局のほうですが大きな変化がありまして、というのは、ここにも文言があるのですが、メイト同士の連携という「連携」というキーワードが、これまで議論が深まる中で来年度予算に入っているというのがあります。例えば事業局と健康福祉局の連携、実は認知症施策は今まで完全に分かれていたのが、それをつなぎますということを今回言っているのです。さらに、ここにもありますけれども、メイトさんの同士もそうなのですが、団体とか企業をつないでいくとか、また、病院とクリニックの連携、今回予算書にも入っていますけれども、この連携というのが新たに横浜市としての認知症施策の展開になってくると思っているのですが、これに関して、ここにはないのは別にあれですけども、今、区役所としてその辺で考えていること、局と連携すること、やろうとしていることがもしあれば聞いておきたいのですが。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>今、具体的にこういう施策をとということで考えているものは正直ございません。ただ、行田先生がおっしゃるように、今後、ご指摘のあったようなことは必要だと考えておりますので、局等ともそれこそ連携しながら、区として区民の方に近い立場でいろいろと取り組んでまいりたいと思います。</p>
行田座長	<p>例えばスローショッピングなんかもこれからまた始まっていくということで非常に期待しているのですが、ぜひ連携をよろしくお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、意見交換は以上とさせていただきます。</p>